

第5回 肝属川水系ダム洪水調節機能協議会

令和7年3月12日
大隅河川国道事務所

1. 肝属川水系ダム洪水調節機能協議会の取り組み

○関係者（河川、ダム、利水、地域）の密接な連携により、洪水調節機能向上の取組を効果的に実施することを目的として、令和3年9月に肝属川水系ダム洪水調節機能協議会が発足。

R3.9.30（書面開催） 第1回 肝属川水系ダム洪水調節機能協議会

規約を策定

R4.2.25 第3回 肝属川水系流域治水協議会
第8回 肝属川水防災意識社会再構築協議会
第2回 肝属川水系ダム洪水調節機能協議会

R4.12.22 第4回 肝属川水系流域治水協議会 幹事会
第9回 肝属川水防災意識社会再構築協議会 幹事会
（肝属川水系ダム洪水調節機能協議会 幹事会）

R5.3.23 第4回 肝属川水系流域治水協議会
第9回 肝属川水防災意識社会再構築協議会
第3回 肝属川水系ダム洪水調節機能協議会

R5.12.26 第5回 肝属川水系流域治水協議会 幹事会
第10回 肝属川水防災意識社会再構築協議会 幹事会
第4回 肝属川水系ダム洪水調節機能協議会 幹事会

R6.3.15 第5回 肝属川水系流域治水協議会
第10回 肝属川水防災意識社会再構築協議会
第4回 肝属川水系ダム洪水調節機能協議会

2. 肝属川水系における令和6年度の事前放流実績

令和6年度の事前放流実施状況

- 荒瀬ダム 事前放流（ガイドライン）
8月27日10時00分：台風10号接近に伴い事前放流を開始。
8月28日19時10分に停止。
- 高隈ダム 事前放流（ガイドライン）なし
事前放流（臨機措置）
4月19日12時：前線接近に伴い事前放流を開始。
7月8日10時に停止。
7月11日12時：梅雨前線に伴い事前放流を開始。
7月24日9時に停止。
8月26日12時：台風10号接近に伴い事前放流を開始。
9月5日15時30分に停止。
9月20日12時：秋雨前線に伴い事前放流を開始。
9月27日10時30分に停止。



事前放流（ガイドライン）R2～

全国の利水ダム等に掲示された「事前放流ガイドライン」に基づき、ダム上流の予測降雨量が基準降雨量（降雨継続時間6時間）以上であり、かつ事前放流が必要と判断されるときに貯水位限度まで事前放流を実施する運用を開始。

	高隈ダム	荒瀬ダム
基準降雨量	176mm	196mm
貯水位限度	155.0m	143.52m
常時満水位	158.0m	144.0m
洪水調節可能容量	299.4万m ³	7.0万m ³

放流の効果

予め貯水位を低下させ、大雨の際に洪水調節（最大約 62 m³/s）を行い、下流河川の流量低減に寄与した。
（令和6年8月29日5時の高隈ダム地点：流入量 128.21 m³/s → 放流量 65.79 m³/s）

高隈ダムの臨機措置に基づく事前放流 H29～

平成28年の台風16号豪雨を受けて、九州農政局、鹿児島県、笠野原土地改良区、鹿屋市等関係機関により「高隈ダムの臨機措置等に係る連絡調整会」を設置。協議の結果、高隈ダム操作規程に基づき、災害未然防止を目的に気象状況により笠野原土地改良区が協力できる範囲でダム水位を下げる運用を開始。（以下「臨機措置に基づく事前放流」）。
おおむね満水位から2～3m下げる操作を行う。

3. 高隈ダムにおける堆砂対策について

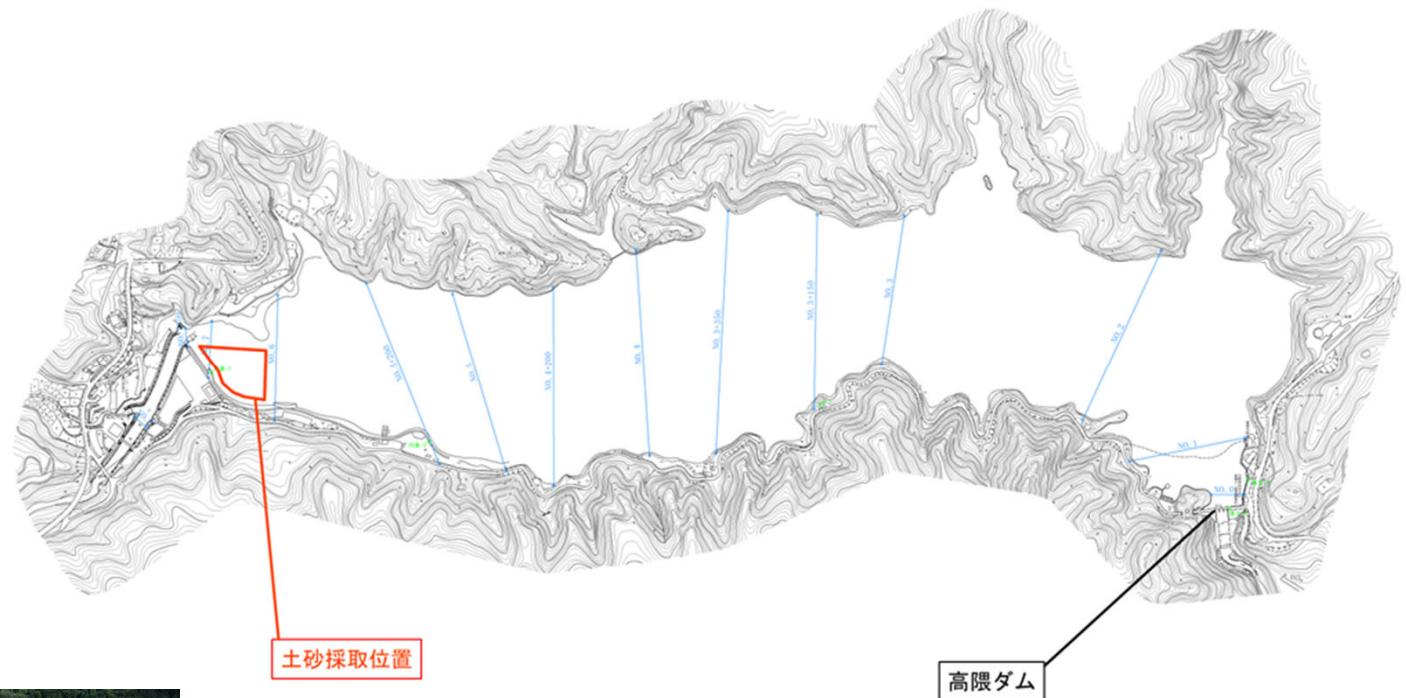
○応急的な堆砂対策

- 高隈ダムは、平成28年台風16号に伴う記録的な豪雨により大量の土砂が流入し、大幅に堆砂量が増加。利水及び有効貯水量を最大限活用した洪水調節可能容量を確保するために堆砂対策が必要。
- 応急対策として、土地改良区が土砂採取（堆砂除去）業者を決定し、令和4年8月から堆砂除去工事を実施中であり、令和7年1月末までに約28,000m³を除去している。
- 応急的な堆砂対策と並行して恒久的な堆砂対策の検討を進めている。

堆砂除去工事前（令和2年6月5日時点）



堆砂除去工事状況（令和6年10月8日撮影）



土砂採取（堆砂除去）実績

R4年度（R4.8～R5.3）	5,000m ³	
R5年度（R5.4～R6.3）	10,000m ³	
R6年度（R6.4～R7.1末時点）	13,000m ³	累計28,000m ³